

「場の力」の発揮で地域の自立の実現

～ふじのくに静岡からの発信～

第27回 自治体学会静岡大会

第27回自治体学会静岡大会

日時：2013年11月29日（金）

8：30～17：00

場所：静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ

〒422-8005 静岡県静岡市駿河区池田79-4
JR東静岡駅南口からメインエントランスまで徒歩約3分
東静岡駅は静岡駅から東京方面東海道線で1駅・約3分

前日11月28日（木）は、同じ会場で第29回全国自治体政策研究交流会議が開催されます。

自治体学会企画部会からのお知らせ

会員応募企画

会員による「研究発表セッション」、「公募分科会」

自治の実践に取り組む現場からの報告、大学院等で自治体学を研究した成果などが発表されます。「研究発表…」では研究報告が、「公募分科会」では個人やグループの創意工夫による分科会を開催。参加型企画が大会を盛り上げます。

ポスターセッション

大会当日(11/29)のポスターセッションにご参加下さい

「ポスターセッションー自治体学サロン」を開設します。自治体学会地域活動支援費を受けた研究活動等のポスター展示、会員個人・団体の活動や出版物などの配布、展示、自治体の取組の紹介など、自由に交流できる場です。

詳しい企画内容は、学会HP <http://www.jigaku.org/> にて報告します。

第27回自治体学会静岡大会を開催いたします。晩秋の静岡で、多数の皆様のご参加をお待ちしています。

企画は6月末現在、最新の状況は自治体学会ホームページ <http://www.jigaku.org/> をご確認ください。

当日のプログラム

8：30～9：30

自治体学会総会

10：00～12：00

午前の分科会

13：15～15：15

午後の分科会

15：30～

自治体学会表彰式

分科会企画の詳細

10：00～12：00

午前の分科会

1. 高度成長時代における公共施設の 老朽化にどう対応するか

公共施設の老朽化問題は、現実でかつ深刻な問題になり、今後どのように維持・管理・補修

プレフォーラム

9月6日(金) 13時～16時
プレフォーラム開催予定!

静岡県コンベンションアーツセンター グラン
シップにて。詳細は自治体学会HP [http://
www.jigaku.org/](http://www.jigaku.org/) に掲載予定です。

をするか、多くの自治体では悩ましい問題になっている。

こうした公共施設が整備された時代と今日では、人口・社会経済の状況は著しく異なっており、財政の持続性が疑われ、公民の役割分担でもアウトソーシングが進み、自治体職員の専門性が問われる。時代状況に適合する公共施設の維持管理をいかにするべきか、多角的に検討する。

2. 空き家問題を考える～政策法務の視点から

少子高齢社会、人口減少社会が進む中で、近年空き家が増加し社会問題となっている。家屋の倒壊、景観への障害、防犯や衛生面など様々な問題をはらむ案件が増加しており、対策が必要となってきている。全国的な空き家の実情を概観し、また、近年行われている自治体における空き家を適正管理するための条例制定の実例から浮かび上がる法的論点を整理しつつ、今後の空き家対策について議論する。



3. 課題解決のための 実りある議論をめざす～沖縄式地域円卓会議から学ぶ～

地域課題の解決をめざすとき、動員やお願いではなく、多様な主体がまさに「主体となって」とりくむ必要性は明らか

だ。だが、どうしても
たらそうなるのだろうか? 静岡のある地域の「困りごと」を題材とした円卓会議という手法を通じて、課題を共有し、「主体が主体になる」議論のありかたと可能性を実際に学ぶ。



13:15～15:15

午後の分科会



1. 大災害にどう備えるか～東日本大震災の教訓と防災計画のあり方～

東日本大震災における防災計画の反省を踏まえつつ、いかにして防災計画を実効性の高いものとし、首都圏直下地震や東南海・南海地震など来るべき災害にどのように立ち向かっていくべきか議論する。災害は我々の社会構造の弱点を一気に表面化させることを踏まえ、特に「情報」、「住民行動」、「都市構造」、「自治体のミッション」に着目していくことにしたい。

2. 地方議会の挑戦! ～「自由」討議にとって会派は必要か?

地方に様々な権限が移譲される中で、弾力性のある地方議会運営が求められているが、実際には様々な前例や慣習、調整済み確認事項、特に「会派」という単位が、議員個人の能力やキャリアに関係なく形式主義的に重要視されている

の
が現実である。「会派」というファクターに着目し、形式主義的な議会運営から一歩踏み出し、弾力的な運営方針によって議会の活性化を図った事例を紹介し、新しい地方主権時代の議会の在り方を模索する。

3. 地域で活躍できる職員になろう!～対話から生まれる“あるべき職員の姿”

課題が山積する自治の現場の中で、これからの自治体職員に求められるのは地域のつながりをデザインできる職員ではないだろうか。地域やコミュニティを支えるために必要なものを見出すことができ、住民とのつながりの中で必要なものを新たに創り上げることができる、そのような職員を育てるためには何が 필요한のか。そして現場ではどのような職員が求められているのか、ワールド・カフェ方式による参加者相互の対話の中からあるべき姿を見出していきたい。



企画の内容は、一部変更することがあります。

最新の情報は自治体学会ホームページをご覧ください。

(<http://www.jigaku.org/>)

企画部会一同、みなさんのご参加をお待ちしています。